



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2351		
科目名	企業取引と法（ロジスティクス法）		
担当教員	工藤 聡一		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 3		
講義室	1206	単位区分	選必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード：学修のゴールを示すディプロマポリシー（DP）との関連 DP1－E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3－H〔論理的思考力・批判的思考力〕理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4－I〔理解力・分析力〕文章表現・数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、問題解決につなげることができる。 ■CRコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E1 学識と専門技能（30%） H1・H2 論理的思考・批判的思考（30%） I1 理解・分析と読解（40%）		
教員の実務経験	モビリティやドローンを製品に含むロボット・メーカーの役員をつとめています。会社の業務執行の決定及び監督に際して考慮すべき取引法事項、さらにモビリティやドローンの取引法的側面について、実務上の経験と知見を活かして、講義を行います（第4回、第13回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット：能力開発ステージとの対応 2 進行期 ～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	いわゆる民法の商化、商法の単行法化の傾向の中で、独自の法体系として商法典に唯一残されることとなったのが、運送です。本講義は、生産から消費に至る製品の物理的流れを統制し合理化する企業システム、すなわちビジネス・ロジスティクスを支える陸・海・空の各運送取引、そして倉庫寄託取引についての法規制を、ロジスティクスの動態を踏まえつつ確認しようとするものです。約款による権利義務関係の画一的処理、運送証券による目的物の流動化、複合運送の進展、UAS（無人航空機システム）の出現等、物品運送の諸問題に加えて、精神的損害の把握、宇宙運送の可能性等、旅客運送の諸問題をも考察に含めます。 授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するためにオンライン授業（オンデマンド型またはライブ配信型）を取り入れます。 ■キーワード：陸・海・空の運送取引、複合運送取引、宇宙運送の可能性、倉庫寄託取引		
授業の趣旨	■副題 企業取引の基本的仕組みをおさえ、とくにロジスティクスに関する取引法の広がりとお深さを知ろう。 ■授業の目的 ロジスティクスを構成する運送や倉庫の取引において、取引の当事者の利益がどのように調整されているのかを把握し、その内容を適切に説明できるようになることを目的とします。 ■授業のポイント		

	現代社会は企業社会といわれます。企業が、我々の身近にあって、毎日の生活に密接にかかわる制度であることは、誰の目にも明らかです。物質面だけをとらえても、身の周りの物のほとんどは企業によって作られ、運ばれ、そして売られたものに違いなく、それらを得るための糧さえ、多くの人は企業における労働に負っています。本講は、このように今日制度インフラとなった企業を規律するルールのうち、企業活動、とりわけ運送・倉庫を中心とする「ロジスティクス法」に光をあて、そこでいかなる利害調整が行われているのか、理解することとします。具体的には、商取引に関する商法総則・商行為法上の基礎概念・制度趣旨の理解からはじめて、判例・学説の動向を踏まえ、また各種の商事特別法、約款との関係を含めて、陸、海、空にわたるロジスティクス取引にかかる法制度の運用の実際を確認することとします。						
総合到達目標	■企業取引に関する主要法制度の機能を把握し、円滑にこれを運用するための学識を表現することができる。 ■ロジスティクスに関する法規範及びその社会的背景を理解し、学識として表現することができる。						
成績評価方法	■ミニテスト1回（40%）：適用ルブリック E1・I1 （評価の観点） 穴埋め式問題、またはテンプレート式問題により、企業取引をめぐる法規制の趣旨、要件、効果を正確に把握しているかどうかを確認します。 （フィードバックの方法） テスト終了後、正答を確認しつつ、関連の知識をおさらいします。 ■授業内テスト1回（60%）：適用ルブリック H1・H2 （評価の観点） 国際航空旅客運送責任制度の変遷をテーマとした論述式問題により、ロジスティクスに対する法規制の政策的側面についての理解度をはかります。知識の正確さ、及び答案の構成・表現の適切さを評価します。 （フィードバックの方法） テスト終了後、模範解答を紹介しつつ、関連の知識をおさらいします。						
履修条件	「ロジスティクス論（RMGT2306）」（2年次前学期配当）を履修済であることを、原則とします。						
履修上の注意点	■将来民間企業で働こうとする学生には、もちろん必須の事項を扱います。しかし、公務員になろうという学生諸君についても、生活者として企業と取引せずには生きていけませんし、調達等の場面で、あるいは規制対象として、執務上も企業とかわることが少なくありません。皆さんも「行政キャリア」と「企業キャリア」の区分で単純に判断せずに、積極的に履修してください。 ■近時「学び」の仕組みの理論的な説明が進んできており、本講義の運営上も、そうした知見を取り入れます。すなわち、講義をベースとしながらもワークショップ的な手法を加味し、学習者が既に身に付けている知識と意識的に関連付けて、新たな知識の獲得のための理解を活性化させます。また、各種のグラフィックオーガナイザーを用い、学習過程を可視化し、新たな知識の摂取と定着を促進させます。詳しくは、ガイダンスで説明します。						
授業内容	本欄記載事項の主語は原則として皆さんです。よく読んで準備をし、主体性をもって、授業に臨みましょう。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション（企業法の体系、商行為の通則）、身近な企業取引（1）売買取引「商事売買」 ②授業概要 （ガイダンス）授業の内容、スケジュール、成績評価の方法について確認する。 （イントロダクション）企業法の体系を概観し、今後の学修内容を俯瞰（ふかん）する（E1, I1）。 身近な企業取引として、民事取引との対比における「商事売買」の仕組みを考察し、企業取引法への関心を育てる（E1）。なお、この点について、ワークショップを行うことがあります。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第I編第1章、第II編第1章）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト及び講義ノートを通読したうえで、フォームA「KWLチャート（1） 商事売買」を完成させる。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 身近な企業取引（2）売買仲介取引「仲立人」 ②授業概要（E1）。 身近な企業取引として、「仲立人」ないし「仲介業者（ブローカー）」の業務に目を向け、企業取引法への関心を育てる（E1, I1）。また、派生論点として、バーチャル・ショッピング・モール等のプラットフォーム責任を考える（E1, I1）。なお、 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション（企業法の体系、商行為の通則）、身近な企業取引（1）売買取引「商事売買」 ②授業概要 （ガイダンス）授業の内容、スケジュール、成績評価の方法について確認する。 （イントロダクション）企業法の体系を概観し、今後の学修内容を俯瞰（ふかん）する（E1, I1）。 身近な企業取引として、民事取引との対比における「商事売買」の仕組みを考察し、企業取引法への関心を育てる（E1）。なお、この点について、ワークショップを行うことがあります。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第I編第1章、第II編第1章）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト及び講義ノートを通読したうえで、フォームA「KWLチャート（1） 商事売買」を完成させる。	2	①授業テーマ 身近な企業取引（2）売買仲介取引「仲立人」 ②授業概要（E1）。 身近な企業取引として、「仲立人」ないし「仲介業者（ブローカー）」の業務に目を向け、企業取引法への関心を育てる（E1, I1）。また、派生論点として、バーチャル・ショッピング・モール等のプラットフォーム責任を考える（E1, I1）。なお、
回	内容						
1	①授業テーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション（企業法の体系、商行為の通則）、身近な企業取引（1）売買取引「商事売買」 ②授業概要 （ガイダンス）授業の内容、スケジュール、成績評価の方法について確認する。 （イントロダクション）企業法の体系を概観し、今後の学修内容を俯瞰（ふかん）する（E1, I1）。 身近な企業取引として、民事取引との対比における「商事売買」の仕組みを考察し、企業取引法への関心を育てる（E1）。なお、この点について、ワークショップを行うことがあります。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第I編第1章、第II編第1章）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト及び講義ノートを通読したうえで、フォームA「KWLチャート（1） 商事売買」を完成させる。						
2	①授業テーマ 身近な企業取引（2）売買仲介取引「仲立人」 ②授業概要（E1）。 身近な企業取引として、「仲立人」ないし「仲介業者（ブローカー）」の業務に目を向け、企業取引法への関心を育てる（E1, I1）。また、派生論点として、バーチャル・ショッピング・モール等のプラットフォーム責任を考える（E1, I1）。なお、						

	これらの点についてワークショップを行うことがあります。なお、この点について、ワークショップを行うことがあります。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第2章1）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト及び講義ノートを通読したうえで、フォームF「VENNダイアグラム 仲立人vs問屋」を完成させる。
3	①授業テーマ 身近な企業取引（3）運送取引「運送人」、運送仲介取引「運送取扱人から通運業者、そしてフォワダーへ」 ②授業概要 身近な企業取引として、「フォワダー」の業務に目を向け、企業取引法への関心を育てる（E1, I1）。なお、この点について、ワークショップを行うことがあります。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第2章2）を読み、メモをとって受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト及び講義ノートを通読したうえで、フォームG「FRAYERモデル フォワダー」を完成させる。
4	①授業テーマ 一般企業設備（支配人、使用人、商号、商業帳簿、商業登記） ②授業概要 企業取引を支える汎用的な企業設備として、「支配人」の権利義務を考察し、企業取引法への関心を育てる（E1, I1）。なお、この点について、ワークショップを行うことがあります。 担当教員の実務経験を踏まえて、企業の人的・物的設備の運用上の問題を重点的に講義します。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅰ編第2章4、第3章1）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト及び講義ノートを通読したうえで、フォームC「KWL A Qチャート『支配人の競業禁止義務』」を完成させる。
5	①授業テーマ 陸上運送の企業主体—運送人・責任制度、陸上運送の企業活動—物品運送（含相次運送・貨物引換証・運送約款）、旅客運送 ②授業概要 陸上運送人の権利義務について考える。国際複合運送における相次運送責任の成否を検討に含める（E1, I1）。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章1、6）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。 ④復習（120分） テキスト及び講義ノートを通読したうえで、フォームB「KWLチャート（2）『コンテナ輸送』」を完成させる。
6	①授業テーマ 海上運送の企業主体と企業設備—船舶所有者・船舶共有等、責任制度、海員・船舶 ②授業概要 海上運送の大資金性及び投機性が反映した、海上運送人の企業主体及び物的設備の態様を考察する（E1, I1）。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章3）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。 ④復習（120分） テキスト及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。
7	①授業テーマ 海上運送の企業活動—物品運送（含船荷証券）、旅客運送 ②授業概要 内航運送及び外航運送の事業内容と関連制度（決済）について考える（E1, I1）。

	③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章4）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。 ④復習（120分） テキスト及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。
8	①授業テーマ 海上危険への対処—船主責任制限、油濁損害補償、共同海損、船舶衝突、海難救助、海上保険 ②授業概要 海上企業活動において不可避な海上危険への対処にかかる制度を考察する（E 1, I 1）。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章4）を読み、メモを取って講義ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。 ④復習（120分） テキスト及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。
9	①授業テーマ 運送仲介と倉庫寄託の企業活動—運送仲介取引「フォワードからインテグレータへ」、倉庫取引 ②授業概要 ロジスティクスの高度化に占める運送仲介及び倉庫寄託の役割を考察する（E 1, I 1）。 第8回までの授業のまとめを兼ね、第1回ミニテストを実施します。陸上運送と海上運送との規制の違いに関するテンプレート式問題とします。解答に引き続いて、正答の説明を含む問題解説を行います。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第2章2）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。 ④復習（120分） テキスト及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。
10	①授業テーマ 国際航空運送の制度インフラ、航空運送の企業主体—航空運送人・責任制度「旅客責任制度の変遷（1）」 ②授業概要 航空機の円滑な往来を可能にする国際的な法的枠組みを確認する（E 1, I 1）。 1929年ワルソー条約から1966年モントリオール協定までの、航空旅客責任制度の変遷を跡付ける（E 1, H 1・2）。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章5）、PDF教材『現代航空法論』（10）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。 ④復習（120分） テキスト、PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。
11	①授業テーマ 航空運送の企業主体—航空運送人・責任制度「旅客責任制度の変遷（2）」 ②授業概要 1971年グアテマラ・シティー議定書から1999年モントリオール条約までの、航空旅客責任制度の変遷を跡付ける（E 1, H 1・2）。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章5）、PDF教材『現代航空法論』（10）を再度読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。 ④復習（120分） テキスト、PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。
12	①授業テーマ 航空運送の企業設備（航空機・航空機金融、機長・空員）、航空企業の活動（貨物運送、エア・ウェイビル、旅客運送） ②授業概要

	海上運送との対比において、航空企業の設備及び同企業活動の特徴を確認する（E 1, I 1）。 ③予習（120分） PDF教材『現代航空法論』（6）及び（13）を読み、メモを取って受講ノートを用意する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。 ④復習（120分） PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。 13 ①授業テーマ 航空危険への対処—空中衝突・空難救助、地上第三者損害、航空保険 ②授業概要 航空企業活動において不可避な航空危険への対処にかかる制度を考察する。今後増加が見込まれるドローン（小型無人機）の問題を考察対象に含める（E 1, I 1）。担当教員の実務経験を踏まえて、ドローンの法実務上の問題を重点的に講義します。 ③予習（120分） PDF教材『現代航空法論』（12）及び（14）を読み、メモを取って受講ノートを用意する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。 ④復習（120分） PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。 14 ①授業テーマ 宇宙運送の可能性—宇宙法と弾道宇宙飛行の法的地位 ②授業概要 海陸、空陸、海空の各複合運送の課題、及び宇宙運送の可能性を考察する（E 1, I 1）。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第1章）及びPDF教材『現代航空法論』（15）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。 ④復習（120分） テキスト、PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。 15 ①授業テーマ サマリー ②授業概要 半年間の講義を総括する（E 1, H 1・2, I 1）。授業内テストを実施します。国際航空旅客運送を律するワルソー／モントリオール条約体制の変遷を論理的・批判的に分析する論述式問題とします。解答に引き続いて、出題意図、模範解答の説明を含めた問題解説を行います。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』及びPDF教材『現代航空法論』を通読する。フォームI「5ステップ・アウトライン・オーガナイザー『国際航空運送責任制度』」を準備する。 ④復習（120分） 自己のキャリアプラン、興味に即して、本講で学んだ概念、手法を用いたレポートを作成してみましょう。例えば、物流企業を志望しており、業界の課題として人手不足やラストワンマイル問題に関心がある場合に、「AI自律飛行型ドローンで運送営業を行う際の責任問題」についてまとめる、といったことです。
関連科目	「ロジスティクス」は、ロジスティクスの動態面を扱うものとして、同制度面と扱う本講と密接に関係します。 「民法Ⅰ」「民法Ⅱ」「民法Ⅲ」は、民法とくに債権法の特則としての性格をもつ商法（企業法）の学習の基礎となります。
教科書	■藤田勝利＝工藤聡一編『現代商取引法』（弘文堂、2011年）。 ■グラフィック・オーガナイザー（①新しい知識と既存の知識との関連付けのためのものとして、フォームA（KWLチャート（1）個人用）、フォームB（KWLチャート（2）グループ用）、フォームC（KWLHAQチャート）。②新しい知識の入力・活用に関するものとして、フォームD（3エントリー・ジャーナル）、フォームE（STOP&JOTワークシート）、フォームF（VENNDiagram）、フォームG（FRAYERモデル）。③知識の出力・表現に関するものとして、フォームH（TRACオーガナイザー）、フォームI（5ステップ・アウトライン・オーガナイザー）の計9種）のうちの該当フォームを、授業共有ファイルからダウンロードして持参してください。各フォームはテキスト入力可能なPDF形式であり、教室でのPC・タブレットで作業できます。

参考書・参考URL	■江頭憲治郎『商取引法（第9版）』（弘文堂、2022年） ■総務省・法令データ提供システム： http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi ■McGill大学航空宇宙法研究所リサーチ資料： https://www.mcgill.ca/iasl/centre/research
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に指示します。 ■オフィスアワー 木曜昼休み。それ以外の時間については、メール等でアポイントメントをとって来室ください。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%；パブリックセキュリティ25%；グローバルセキュリティ25%；情報セキュリティ25% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理30%；法学70%

